

RKU Today

流通経済大学広報誌 vol.7

[特集] 地域スポーツを支える
流経大運動部



流通経済大学

SPRING 2009

CONTENTS

RKU Today vol.7
Spring 2009

表紙イラスト：佐々木悟郎

- [特集]
- 04 地域スポーツを支える
流经大運動部**
文：田畑 亨 (スポーツ健康科学部講師)
- [インタビュー]
- 08 「テイク・ア・チャンス」を肝に銘じよ
ロバート・B・スペンサー 教授**
聞き手：馬場啓一 (法学部教授)
- [オーストラリア AIS 訪問レポート]
- 10 オーストラリアの
トップスポーツ組織を学ぶ**
報告：荒井宏和 (スポーツ健康科学部講師)
- 連載 [ロンドン留学余話] バブの話 其の四 (最終回)
- 12 ある土曜日のハムステッドの一夜**
文：波田永実 (法学部教授)
- Close Up!
- 14 流通経済大学 [教職員紹介]**
- コラム [馬場啓一のRKUウォッチング]
- 16 たおやかなり、茶道部**
- [OB/OG 訪問] 立川が聞く
- 18 川崎健治さん (1982年卒業・JR藤代駅駅長)**
取材：立川和美 (社会学部准教授)
- [留学生紹介]
- 20 張瑩さん (中国・北京出身)**
「友達からはゼミチョウと呼ばれています」
取材：沖野雅広 (企画広報室)
- 21 出版会・図書館からのお知らせ**
- 22 NEWS & TOPICS**

巻頭言

歴史は繰り返すのか。

昨年初秋のアメリカ発の世界的金融危機とそれに続く景気の後退は、しばしば1929年のアメリカ大恐慌と1930年代の世界不況に例えられる。したがって我が国では、「昭和恐慌後の教訓」に学ばなければならないのかもしれない。

確かに、井上準之助蔵相による旧平価での金本位への復帰と、採算の悪い企業の整理・淘汰による経済的停滞からの脱却という目論見は、どこかあのバブル崩壊後の「構造改革論」を思わせるものがある。とすれば、1931年の犬養毅内閣の高橋是清蔵相のもとでの、金融政策レジームの転換が効果的であったことに学ぶ必要があるのかもしれない。

ただ、グローバル・スタンダード(金本位制)の放棄が経済のブロック化とナショナリズムへの急旋回を伴ったという、1930年代の轍を踏んではなるまい。

デモステネス (384～322 B.C.)

アテナイの雄弁家。政治家としても活躍し、反マケドニア運動を展開したが失敗し、自ら毒を仰ぐこととなった。写真は龍ヶ崎キャンパス図書館前のデモステネス像。



流通経済大学 陸上競技部の 「ささえるスポーツ」

陸上競技部は一九七七年の創部で今年で三二年の歴史を有する部で、OBにマランのダニエル・ジェンガ（現・ヤクルト）を輩出する運動部である。これまで、駅伝を中心とした活動に力を入れてきたが、スポーツ健康科学部開設を機に短距離、投擲、跳躍など幅広く選手が入部し始め、現



在では、駅伝部と合わせる一〇〇名をこす部員で構成されている。近年では、地域に根ざしたチームづくりを心がけていることから、地域の大会をサポートしたり、自ら競技会を開催し、地域全体の競技力向上にも努めている。駅伝は喜多秀喜先生（社会学部教授）が、そして短中距離、投擲、跳躍は田箕健太郎先生（スポーツ健康科学部准教授）が監督を務めている。

投擲フェスティバルの開催 ——本学独自の「お祭り」スタイル



投擲フェスティバルも開催している。

陸上競技部では、大学生が出場するのはもちろんのこと、地域の中学・高校の選手も参加することができる。会場は龍ヶ崎市にある総合運動公園「たつのこフィールド」。幅広い年代の選手が集まり、自らの目標タイム更新に向けて競い合っている。また、この冬から投擲種目だけを扱った、

陸上競技部では昨年「流通経済大学陸上競技会」を開催している。他大学でも自らの大学名を冠した陸上競技会を開催している例は多いが、これらの大学は、1部校に属している所謂、強豪校と言われる大学ばかりである。本学陸上競技部は、現在2部に属し、1部昇格を目標にしているが、2部校所属の競技部が競技会を開催するのは、流通経済大学が初めてである。

この投擲フェスティバルは、他大学で行われている競技会とはスタイルが異なる。それは、「フェスティバル」という名称の通り「お祭り」であるということ。午前中は試合、午後は練習会、プラス部員による豚汁・おにぎりの販売といったような工夫をしながら、「お祭り」を演出し盛り上げている。



流通経大 運動部 地域スポーツ を支える

【特集】



スポーツが盛んな流通経済大学では、地域貢献の一環として運動部が地域の競技会を開催するなどの活動も行っています。今回は陸上競技部を例に、その活動を紹介します。

文：田畑 亨（スポーツ健康科学部講師）

流通経済大学の運動部の活躍は、サッカー部の関東大学サッカーリーグ優勝、ラグビーフットボール部の1部リーグでの活躍など華々しい。また教職員にオリンピック経験者がいるなど、スポーツが盛んな大学である。現在のスポーツは、実際に体を動かしスポーツ活動を行う「するスポーツ」、競技場やテレビでスポーツを観戦する「みるスポーツ」、スポーツ大会や教室等の運営スタッフやボランティア

スタッフとして携わる「ささえるスポーツ」といったように、スポーツへの関わり方が多様化してきている。「するスポーツ」とは違い、決してスポットライトを浴びない「ささえるスポーツ」。しかしながら、この「ささえるスポーツ」なくしてスポーツはできない状態である。そこで、今回の特集は、「地域スポーツを支える 流通経大運動部」と題して地域のスポーツ支援活躍を紹介したい。





今回は、陸上競技部の「ささえるスポーツ」を紹介したが、他の運動部も、それぞれ龍ヶ崎のスポーツをさまざまな形で支えている。



「ささえるスポーツ」は、勝ち負けを競い合うところに魅力がある。また「みるスポーツ」を行っている人に、感動を与えることができる。しかし勝敗がつかない「ささえるスポーツ」。強いて言うのであれば、円滑に大会を運営できたことが「ささえるスポーツ」の勝ちなのかもしれない。

このような機会を通して選手にはスポーツをするこの意味を感じとってもらえ、同時に、スポーツ人として成長してもらいたいと田籾監督は言う。

それは決してスポ Trot ライトを浴びることはないが、「ささえるスポーツ」はまさにスポーツにおける「緑の下力持ち」と言うことができる。

オリンピックやワールドカップ等の国際大会での活躍で選手はスポットライトを浴び、ヒーローとなる。しかし、これらスポ Trot ライトを浴びるヒーローすべてが、地域でスポーツを始める。この地域スポーツを支える活動は、将来のメダリストを輩出する重要な活動であると言っても過言ではない。

「ささえるスポーツ」が熱心な流通経済大学運動部は、我が国のスポーツ界を支えていると言えるかもしれない。



龍ヶ崎市中学駅伝大会 ——龍ヶ崎イチ安全な大会を目指して



この駅伝大会では、たつのフィールドから城ノ内、白羽を通過し、たつのフィールドに戻ってくる一周約四キロのコースを六人でつなぐ。

市内の中学校は全部で六校。一校から三チームずつ出場し、合計一八チームで

龍ヶ崎市中学駅伝大会は、昨年から開催された大会で、今年で2回目の新しい大会である。

冬はやはり、マラソン・駅伝のシーズン。ここ龍ヶ崎市でのスポーツの普及をめざし、またこの大会から箱根を走る選手が出るようにと企画された大会でもある。



龍ヶ崎市一を狙う。中学校の先生も熱心で、陸上部以外の選手もかき集めてチームを作る。したがってユニフォームがばらばらでサッカーのユニフォームや野球のユニフォームで出場する選手もいて、まるでオールスターの様な華やかさも感じることができる。

ED・心肺蘇生の講習を受け、サポーターに当たっているのだから。また、万が一の事故に備えてAEDを持った学生が自転車に乗りコースを巡回する。このようにAEDの使用方法・心肺蘇生法の知識を持った学生が沿道に立っていることで「龍ヶ崎イチ安全な大会」が実現するのである。



流通経済大学 陸上競技部

箱根駅伝出場ならびに関東学生陸上連盟1部昇格を目指し、部員一丸となって頑張っています。



- [駅伝部]
主将…船場崇史(スポーツ健康科学部4年)
[陸上競技部]
主将…馬橋利之(スポーツ健康科学部4年)
- 部長…沢谷豊(社会学部教授)
監督…喜多秀喜(社会学部教授)
顧問…田籾健太郎(スポーツ健康科学部准教授)
コーチ…田畑亨(スポーツ健康科学部講師)

- 戦歴**
加藤木龍太(社会学部4年)
2008 関東学生陸上選手権 やり投げ 5位
小川翼(スポーツ健康科学部3年)
2008 関東学生陸上選手権 やり投げ 7位
古原智樹(スポーツ健康科学部2年)
2008 関東学生陸上選手権 ハンマー投げ 7位
4×400MR 2008年茨城県選手権 優勝

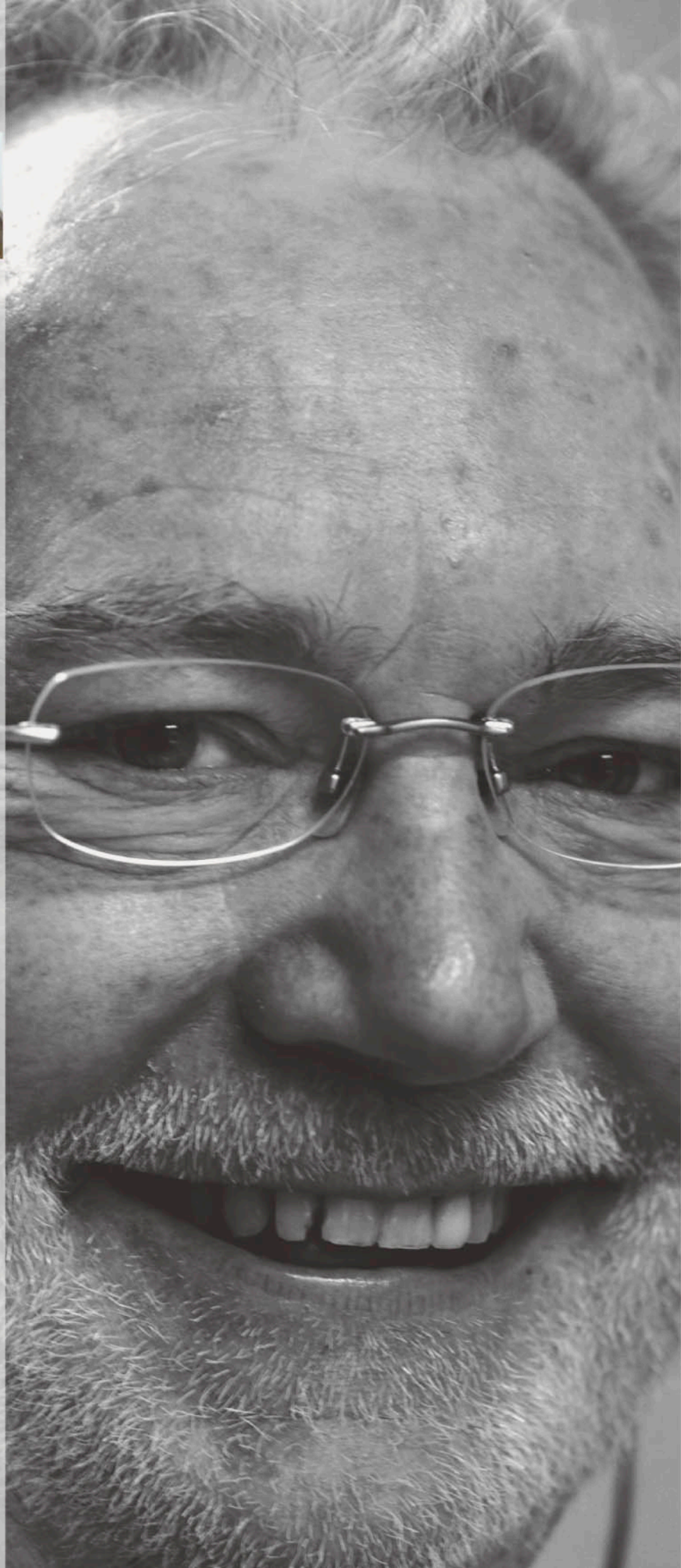
- ホームページ**
[駅伝部] <http://www.geocities.jp/rkuekidv/>
[陸上競技部] http://www2.rku.ac.jp/~track_field/

「テイク・ア・チャンス」を肝に銘じよ

流通経済大学社会学部 **ロバート・B・スペンサー** 教授

本学で主に英会話の授業を受け持たれている、アメリカ・デトロイト出身のスペンサー先生にお話を伺いました。

聞き手：馬場啓一（法学部教授）



ロバート・B・パーカーという作家がいて、ポストンを中心に活躍する私立探偵の物語を書いている。一度だけ会って話をした。本学のスペンサー教授によく似ていた。そして作家パーカーの作中人物の名前はスペンサーという。

それはとにかく、目の前にいるのはロバート・B・スペンサー教授である。「ロバート・B・スペンサーのBはブルース。スペンサーのサーはserで、詩人のスペンサーと同じ。統計的にはcerと綴るほうが圧倒的に多くて、九五パーセントくらいがそうらしいです」

これを日本語で説明されるのだから聞き手はラクだ。本学には外国籍の先生が何人もいるが、ごなたも立派な日本語を話される。スペンサー先生も英語の授業を受け持たれ、これまで多くの卒業生を送り出して来

た。ご出身はアメリカ中西部ミシガン州デトロイト。「聞くこと、書くこと、そして話すこと。これが語学の根幹ですが、特に話すことを大事にしています。これには練習しかありません。プラクティス、プラクティス&プラクティスですね」

話す言葉がスムーズであり、詩的な響きさえ感じられる。「だから黙っていても、いけないんです。なんとか話そうとする、その努力が私の授業では大事」

学問に王道はない。語学に於いても、おや。「日本に来て十数年になりま

す。日本に来て初めて日本語を勉強し始めたのです」
「凄いいいことではないか。ところで、と話題を変えた。オバマ新大統領の登場はいかがですか。」
「素晴らしいことです。本当に素晴らしいこと。」

ちなみに日本在住でも選挙権は持続しており、当然

だが、アメリカ大使館から投票用紙が送られてくるのだという。上院とかの議員選挙も同時に行われるので、その投票用紙も長いものになる。「大統領だけを選挙する方法もあるのですが、私は全ての権利を行使します」

スペンサー教授の所属は社会学部。ところでそのモットーは。

「テイク・ア・チャンス」
きっぱりと、一言でいわれた。「チャレンジ精神、ですね」
大きくうなずく。こういう先生に教わる流通経済大学の学生は幸せである。

重ねて書くが、学問に王道はない。最後に日本で好きなものをうかがった。

「スモウですね。もう大好き。山本山とか、ああいーカ士が好みます」
スペンサー先生のお体とお相撲さんの巨体が一瞬重なった。



ロバートB.スペンサー
Robert B. Spenser

ミシガン大学にて文化人類学、ラジオ、テレビと映画に関する学位を修得。アメリカ、ヨーロッパ、日本において、ニュースやドキュメンタリーのプロデューサー及びディレクターを務める。また、欧米の複数の大学で言語、ジャーナリズム、メディアと社会、異文化コミュニケーションコースの教鞭を取る。主な研究分野は、異文化コミュニケーション。



得数でも世界五位であった。この輝かしい成果の背景には、首都キャンベラにあるオーストラリアスポーツ研究所 (AIS: Australia Institute of Sport) の貢献が大きい。

今回、本学スポーツ健康科学部荒井ゼミ有志が、この AIS を訪れ、同施設で働く研究員にインタビューを行った。担当していた JUANITA Weissensteiner 博士は、ナショナルタレント発掘育成コーディネーターでもある。彼女の仕事は、競技団体と連携して才能がある子供たちを発掘すること (TID)。その方法はユニークで、オーストラリア全土からインターネッ

トを通じて測定項目を収集し、そのデータを分析して、競技に優れた、将来のトップアスリートになるだろうとされる可能性のある子供たちを発掘するものである (e-TID)。Weissensteiner 博士にはこの他、オーストラリアのトップスポーツの構造についても触れてお話をいただいた。

今回の AIS 訪問の経験から、日本とオーストラリアのライフスタイルの違いがあるものの、スポーツをすることの意義と価値、そしてそれに対する考え方や取り組みの違いを学ぶことができた。学生たちにとって、AIS の施設を訪れることができたことは、貴重な体験であったろう。



前列左から貫川、佐藤、木幡。後列左から中山、鈴木、石井

[オーストラリア AIS 訪問レポート]

オーストラリアのトップスポーツ組織を学ぶ

報告：荒井宏和 (スポーツ健康科学部講師)

二〇〇八年の冬、成田を飛び立ち約九時間。日本とは全く季節が違う真夏のオーストラリアに着いた。そもそもなぜオーストラリアなのか？それは昨年四月から始まった三年生の専門ゼミの中で、オーストラリアの競技力向上の仕組みについて触れたことから始まり、それでは実際にオーストラリアのトップスポーツを見てみようということから始まった。

オーストラリアの人々にとってスポーツは、生活の一部であり、文化としても人々に理解され浸透している。夕方になると近くの公園では、ラグビーの練習で人々が集い、三代目で構成されるスポーツクラブがいくつも存在する。オーストラリア最大の調査機関であるスウィーニ



ー・スポーツ・レポートの調べでは、オーストラリア国民の中でもっとも関心があるスポーツはテニスであり、次いで水泳、オージー・フットボールであるという報告がある。これらはオーストラリア国民ならば誰もが一度は経験したスポーツであり、これほどまでスポーツを生活の一部として取り入れている国民は世界にもないだろう。しかし、その一方で最近の傾向では、若年層の間で肥満の問題が取り上げられるようになった。これに対して国は、Active After School Program と呼ばれるキヤンペーンを展開し、子供たちに運動する時間を確保するなど規則的な生活習慣と食生活の改善プログラムを展開している。

このような中で、二〇〇八年の北京オリンピックでは四六個のメダル (金一四個、銀一五個、銅一七個) を獲得し、メダル獲



AIS 訪問に参加した学生たちの感想

中山誠刀海 (4年)

オーストラリアのトップアスリートが集まる AIS の運営方法に疑問をもち、AIS の研究員に運営資金調達方法を質問したところ、日本の JISS とは違いスポンサー会社からもサポートを受けていることがわかった。

石井奈々子 (3年)

感想は AIS の敷地の広さにとっても驚いた。また、AIS は次のオリンピックに向け、サッカーや、ビーチバレーなどテストを行うとともに、類似性のある競技からの種目転向を行っている聞き、どの国も将来に向けた取り組みを積極的に進めているのだと思った。

貫川知也 (3年)

日本のナショナルトレーニングセンターにも泊まり込みで練習しているジュニアの選手たちがいるが、AIS ではジュニアの選手の家族までも一緒に施設に住めるというシステムがあり、子供たちの心理的状况をしっかり把握し競技に打ち込める環境を作っていることに心を打たれた。

木幡美登里 (4年)

オーストラリアに行く前に行った勉強会の中で、AIS はボクシングを強化しているという記事を取り上げた。オーストラリアで有名なスポーツではないのに、なぜボクシングなのか疑問に思い、研究員に質問をした。するとボクシングを強化する理由は、良い練習環境とコーチがいるからだと答えてくれた。AIS の広い土地を活かした大きなスポーツ施設は、オーストラリアだからできるスポーツ環境だと思った。

佐藤辰也 (3年)

現在 AIS がどのような選手を求めているのかについて疑問をもち、AIS 研究員に質問したところ、日本のナショナルトレーニングセンターが行っているタレント発掘同様、国際大会、地方大会で好成績を取めた有能な選手を探していることがわかった。女子バレーボールは成績不振のため特に力を入れていることもわかった。

鈴木光頭 (3年)

AIS をここまで成り立たせてきた秘訣として、色々な人にスポーツコミュニケーションをとり、広い視野で様々な物事を見ることが重要なことがわかった。今回オーストラリアで AIS を見学して実感したことは、オーストラリアは国全体を挙げてスポーツの普及をしているということがわかった。

いう意味の最も下品な言葉)とかの言葉がそここで飛び交ったことは言うまでもない。さっきまでの楽勝ムードは一変し、まるでお通夜のように盛り下がってしまったのだ。勝つていれば、そのまま夜遅くまで試合を肴に大盛り上がりになるはずだったのが、一気にしぼんでしまった。そして夫婦連れからコートを着始めてそそくさと帰り始めた。少し前にこのパブで知り合いになった夫婦連れに別れ際私に「今頃ウエールズのパブは大騒ぎですね」というと髭の夫が「たしかに……」と寂しく言



って帰って行った。その時、入れ替わりに入ってきた二人連れの若者は、パブを支配していた投げやりな暗いムードに一瞬ギョツとして何があったのか、とい

う顔で私を見たので「さっきのラグビーの試合でイングランドが負けたのだ」と説明すると、やはり所に来たものだという顔をしてテレビとは反対側の隅っこで大人しくビールを飲んでた。こうして、ハムステッドのパブの一夜は予想外の終わり方をしたのだが、ハーフ・タイムにトイレに行く時、他の席を見渡すと、試合で盛り上がっている一団とはまるで無関係に話に熱中している女性グループやカードで遊んでいる老人のグループ、二人だけの世界に浸っている恋人同士などラグビー一色ではないことが分かった。これは大事なことだ。例えば熱狂的タイガースファンが集まる居酒屋で他チームのファンが居ごち良く飲めるだろうか?それを許す寛容な空間であろうか?

これはラグビーの国際試合を種にした話だからこうなったのだが、同じパブでサッカー、例えばチェルシーとマンチェスター・ユナイテッドの試合とか、クリケットの試合だとかでも同じように盛り上がるが、偏りはあるにしても両方のチームのファンと一緒に観戦している。私にはパブは比較的寛容な大人の共和的空間であると感じられた。このように、ロンドンのパブは人々がそこに集いビールを媒介に友達とコミュニケーションする空間である。考えてみれば、パブとはある意味自宅の居間の延長なのだ。ロンドンの人々はそんな風にパブを楽しんでいる。

「連載を終わって」

これまで四号にわたってイギリスのパブにまつわるいろいろな話を書いてきた。パブのおかげで一年間の一人暮らしがちょっとさみしくなかったし、イギリスの人々のあたたかい気持ちにもふれることができた。少しでもパブのよさ、楽しさを伝えられたら、と思います。ご愛読ありがとうございます。



オックスフォード・サーカスの近くにあるデューク・オブ・ヨークのパブサイン。眠そうな顔をしているが、この看板のオリジナルの絵がナショナル・ポートレート・ギャラリーにある。こちらも眠そうな顔をしている



ある土曜日のハムステッドの一夜

波田永実 (法学部教授)



筆者が留学先で通ったロンドンのパブについて、4回にわたってお送りしてきた「パブの話」。最終回を迎えた今号では、ある夜のパブでの出来事をお伝えします。



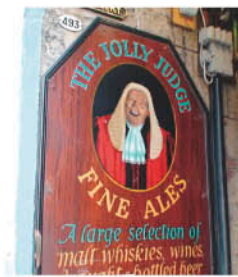
この人物は第3代ソールズベリー侯爵ロバート・ギヤスコイン・セシル。彼は日英同盟を締結した政治家である

二〇〇八年二月の始め、件のTHE DUKE OF HAMMINGTONで面白い体験をした。その日は土曜日で夕方前から常連が集まりだし、さかんにビールを飲みながら盛り上がっている。夫婦連れも何組か来ている。ほとんど見た顔だ。よく考えてみると、私の方が彼らのコミュニティへの関心者だったのだ。この日は夕方六時頃からラグビーの六カ国対抗戦で、イングランド対ウェールズの試合がテレビ中継される日だ。もちろん客のほとんどはイングランドを応援している。ナショナルチームのユニフォームを着ているおじさんが何人もいて、日本のサッカーファンや野球ファンと変わりはしない。しかしウェールズのユニフォームを着ている「勇気」ある少数派も時々いる。私もいつものやつ(フラーのESBという少し色の濃い強いビター)を一パイントももらい、仲間に入

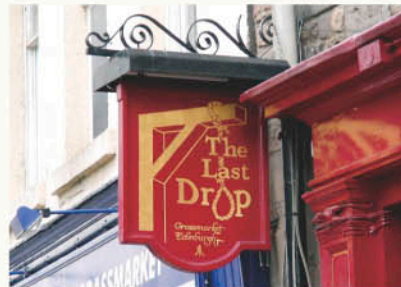


ホブゴブリンという中世ヨーロッパの伝承に出てくる妖精をラベルにしたエール。シェイクスピアの「真夏の夜の夢」に出てくるバックがこの仲間

れてもらって一緒に観戦した。試合の前半戦はイングランドの圧倒的優勢で、みんな余裕綽々でビールをお代わりしながらプレイを楽しんでいた。技術論をぶつ人、身振り手振りでさっきのプレイを解説する人など、ビール片手に和気藹々の雰囲気だ。ところがハーフ・タイムが終わり後半戦に入ってから様相が一変した。イングランドはボールが手に付かないというか、ぼろぼろハンブルしては逆襲された。ちまちま同点に追いつかれた。この辺からもうみんなビールどころではない。ハーフ・タイムの時、私の前で観戦していたおじさんに携帯電話がかかり、用事が出来て一度外に出て行った。そして彼が戻ってくると、一〇点以上の差をつけて勝っていたのが同点になっていないではないか。彼はしきりに何がどうなったのだと周りに聞くのだが、誰も説明する気がない。応援しているチームが負けていく過程を



エディンバラ城の下にある「陽気な判事」という名前のパブのパブサイン。この右奥の小路にある



エディンバラで見つけた絞首台とロープのパブサイン。しかもその首輪がDropのOになっている

イギリスがもっと好きになるはずだ。パブはイギリス中の街角に必ずあって、あなたを待っています。ちなみに私のパブの選択基準は1 パブの外観(たたずまい)、2 人も含めた店の中の雰囲気、3 そこで飲めるビールの3点だ。この3点で高得点なパブは居心地のいいパブだ。

ロンドンのパブあれこれ(4)

パブの看板(パブ・サイン)

最後にパブ・サインつまりパブに掛かっている看板について述べておきたい。そもそも私がパブにこんなに関心を持ったのももちろんビールを飲むためだが、その個性的なパブ・サインに魅せられたからでもある。同じ名前の店でも同じ看板は二つとない。手書きだからだ。まさに千差万別、観ていて飽きない。街歩きの時、カメラを持って行って片端からパブ・サインを写してまわった。パブ・サインにはデザインの優れたものが多いが、中にはシュールなものやちょっと首をひねるようなものもある。例えば、サイレント・ウーマンというパブの看板は、首のない女が自分の首を持って歩いている、というものだ。首がなければ

しゃべれないのでうるさくないという意味らしい(別に私の見解ではありません)。また、絞首刑の場面を看板にしたパブもある。私が実際に観たのはエディンバラ旧市街にあるザ・ラスト・ドロップというパブの看板で、絞首刑台と首輪が描かれたパブ・サインだった。イギリス人はブラック・ユーモアが好きらしい。もし本稿を読んだ人がイギリスに行く機会があったら、ぜひパブをのぞいてみて欲しい。あるいは、すてきな看板を見つけたら中に入って、ビールを1杯注文し、チビチビやりながらぼんやり時間を過ごしてみたい。そしてできれば行きつけのパブを一軒持って欲しい。そうしたら、きっと



説明するのがおっくうなのだ。最後は押されたイングランドがキックでタッチに逃れようとしたところを飛び込んできたウェールズの選手に見事にはたき落とされ、そのままウェールズが拾って持ち込みタッチダウン。ゴールキックも決まり、あつという間の逆転負けになってしまった。ノーサイドの笛が鳴った時「ジーザス(詠嘆調)とか「オーマイ・ガツ!!」(何てことだ!!)とか「シエツト!!」(ちくしょう!!、という意味の下品な言葉)とか、さらに「FUxx」(ここでは書けない、くそつたれ!!)と

ハムステッドのザ・デューク・オブ・ハミルトンの少し奥にあるイェ・オールデ・ホワイトベアというパブ。ここは料理のおいしいパブです。土・日のお昼時は地元の人々でいっぱいになる



[経理課]
中澤 聡 課長

「中澤さん」と呼ぶ声、カウンターのガラス越しに目をやると、懐かしいOBのK氏の顔。湯の丸セミナーハウスの申込だ。彼の仲間たちは卒業しても一番よくセミナーハウスを利用している。でも今回は仲間たちが結婚やら育児やら仕事やらで集まらず一人で行くとのこと。みんな忙しくて何より、充実した生活を送っているようだ。私は本学に就職し今年3月でちょうど20年。彼は今から10年前学生生活課所属時代に会った学生会メンバーで、当時の執行部の面々も一気によみがえる。「最近ニュースは景気が悪い話ばかり、仕事はどう？」と聞くと、「まあ大丈夫です。それよりまたみんなで飲みたいですね」とのこと。

後日もう一枚の申込書が伝票に添付されて回る。今度は彼等仲間たちの懐かしい名前がずらりと並んでいる。一緒に行けるようになったようだ。世の中の景気が悪くならうとも、翻弄されることなくしっかりと前を向いて進めば必ず道は開ける。禍福は糾える縄の如し。

禍福は糾える縄の如し



[スポーツ健康科学部]
上野 裕一 教授

本学部では学生が一堂に会する機会が多い。会場がざわめくと壇上から「静かに」と一喝。愛情と魂の込められた気合が伝わるのか、たちまちシーンとなる。

学生を「ひとりの社会人としてリスペクトする」ことを心がけている。これは、ラグビーで培われた信条のようなものだ。

山梨県生まれ。小学生のときからラグビーに親しんだ。高校時代には2度全国大会に出場、日本体育大学でも活躍した。大学院に進んだあとコーチ、監督など指導者の道を歩んできた。

本学に招かれてそれまで低迷していたラグビー部を7年かけて関東1部リーグに引き上げた。

ラグビーというスポーツには人を賢くする「教育力」が凝縮されている。何事にも全力でぶつかることの大切さといった精神性と論理的思考を育む要素である。それを地道に伝えてゆきたいという。

指導者としての手腕を買われて、日本ラグビーフットボール協会の競技力向上委員会会長という要職も務める。(栗田房穂・記)

ラグビーの持つ「教育力」を伝えたい



[法学部]
梅村 悠 准教授

今般、論文「内部統制に関する情報開示制度の意義と正確性の確保」により法学博士号を授与された。

「内部統制とは聞きなれない言葉でしょうが、これはインファナル・コントロールの邦訳で、企業が違法行為をしないためのチェック・システムを意味します」

学部学生るときから院生を経て本学で教鞭を取る今日まで、一貫して取り組まれてきたのが会社法と、かつては証券取引法と呼ばれていた金融商品取引法の分野である。

「現在主眼を置いているのは企業環境法です。これは昨今大いに取沙汰されている『企業と環境との関わり』を主眼にしたもので、今後益々問題とされる事柄ではないかと、思っています」

今や企業の経済活動と切り離せない環境問題を真摯に研究されているその姿勢は、内外から熱い視線を浴びている。

「これまで以上に日本では商法や企業法に『環境』の視点が必要とされるはずで、アメリカでの事例などを参考に研究を進めています」

(馬場啓一・記)

チャレンジ精神を忘れずに研究に邁進していきます



[流通情報学部]
若林 宏明 教授

私の研究・教育のテーマは、身近にせまるエネルギーと環境の制約が地球規模と地域の政治・経済・社会を規定するものであるという仮説の下に、現代史を分析し、可能性のある未来と、より相応しい社会のあり方を提示することです。たとえば、昨年原油の異常な高騰やガソリン代の高どまりが起こり、多くの産業や日常生活に影響が及びました。同時に、世界的な金融恐慌に入り景気が後退し、経済活動が鈍り、投機資金の流動が起るとともに、原油やガソリンの消費が落ち込み価格が暴落しました。しかし、興味深いことは、価格が落ち込んだにもかかわらず、消費がももには戻らないことです。すなわち、近未来をみると、少なくとも我が国のような成熟化した工業先進国においては、単純な需要・供給の調整機能の働きで、社会や経済が動いているのではなく、全く新しい価値の平衡点を求めて進みつつある可能性があります。未来社会を新松戸を例に適用し、実践しつつあります。

経済や社会を動かすエンジンとしてのエネルギーと環境



[社会学部]
茅原 道昭 教授

私は17世紀のイギリス文学、特に形而上詩を専門としています。大学3年生の時に、この分野の有名な詩人であるジョン・ダンの詩と出会ったことが、研究を始めたきっかけです。形而上詩は恋愛詩が多いのですが、恋の相手を自分へと向けさせるために、時には詭弁とも捉えられる比喩が用いられます。こうした哲学的、論理的なレトリックが大変興味深いですね。

最近ではイギリスの庭園に興味を持っていて、それに関する詩の研究をしています。湖水地方やコッツウォルズ地方に出向き、美しい景観を見ることも魅力のひとつです。

授業では時事問題や環境問題を扱った英文を講読しています。学生の皆さんには、こうした今日的な内容の英文を、自分の力で読み解く力をつけてほしいと考えています。

趣味は推理小説を読むことです。アガサ・クリスティや横溝正史の作品が好きでよく読んでいます。

(立川和美・記)

イギリスの庭園とそれに関する詩の研究をしています



[経済学部]
氏原 茂樹 教授

私は大学院修了後、東京都立短期大学に就職し、教授、学務部長を経て、60歳の時に流通経済大学に奉職させていただきました。専門は財務会計です。

本学から税理士試験の合格者を出したいと思っていましたが、最初に担当したゼミ生から、平成20年12月に、幸運にも、税理士試験(5科目全て)に合格したという朗報が届きました。卒業後、2年で成就した快挙です。後輩諸君にも、挑戦してほしいですね。

大学院では、研究指導のほか、合宿も行い親睦を深めています。修了生の中には中国の大学の教員もおり、そちらに招待講演に出かけたこともあります。その時には、万里の長城をはじめ北京近郊を案内してもらい、とてもよい思い出になりました。会計関連の学会では、評議員・理事等を務めています。

プライベートでは、学生時代に南米西海岸諸国を訪れた時に、ラテン系の明るくおらかな生き方に強烈な印象を受けて以来、時々、海外旅行を楽しんでいます。

(立川和美・記)

ゼミ生から税理士試験合格者が出ました

一服いただくことになった。場所は龍ヶ崎キャンパスの正門を入り、坂を上って七号館へと左にまわり、それをやり過ごしてウサギ小屋を右手に見、そのまま進んだ左手奥の教職員クラブハウスという建物。職員駐車場のそのまた先である。

一階で靴を脱ぎ、スリッパに履き替え二階に上ると、その突き当たりに茶道部の活動の拠点である和室がある。

部長は流通情報学部三年の福本健太君。顧問は社会学部の八田正信先生である。なにも知らないで、わきま



左から木我悠佑(4年・取材当日の来客)、菊池智彦(4年)、早川悠生(2年)、岩間裕佑(2年)、寺田恵(4年・副部長)、福本健太(3年・部長)、菊池紗央里(4年)、李珠榮(4年)、鈴木輝貴(3年・会計)、藤枝裕士(4年)

「馬場啓一の
RKUウォッチング」

コラム



7



たおやかなり、
茶道部

昭和四〇年の建学以来、本学には茶道部が存在した。当然だろう。本邦婦女子の行儀作法の基本は茶道にありと、永く考えられており、それは今も揺るぐことはないからだ。

しかしながら我が流通経済大学において茶道部の歩みは決して平坦なものではなく、いくつかの紆余曲折

を経たと聞く。

だが今日、立派にその存在を示し、大いに成果を上げつつある。まずはご同慶の至り。

小生は龍ヶ崎と新松戸で『日本文化論』を講じており、累計の受講生はその数幾千人に及ぶ。様々な人物、事柄を扱っているのだが、昨今の特徴は茶道の大成者

千利休への関心の深さで、これは男女学生その性を問わない。

先に、茶道こそは本邦婦女子の行儀作法の基本と、差別的な表記をってしまったが、男子学生だって行儀を学びたいのだと知る。偉いことではあるまいか。

一夕その茶道部を訪ね、



表千家不白流、長塚宗節先生

えもなしに、お点前をいただく。

指導いただくのは表千家不白流、長塚宗節先生。

永く本学の茶道部指導に当られ、多くの学生がその薫陶宜しきを得た。

驚いたことに大柄な男子の学生がいくたりも、和服でお点前にあたり、その様子いかにも堂々としており、臆するところがない。

お茶のコースを見事にこなすその手さばきはまことに鮮やかで、間断するところ絶無である。

「一年で、ここまで身に着

けたのですよ」

長塚先生が言われる。誇らしげなのは当然であろう。見れば件のその学生、拙宅にも訪れたことがあるが、当時とは別段の趣である。茶道の諸事作法はもとより、和服の着こなし、挙動のしなやかで、立派な茶人のそれである。

まことに結構な一服と心から感心し、茶席を後にしたことである。

軽い興奮に酔いつつ建物を出る。夜のとりがあたりを包み、キャンパスは静かに息をひそめていた。





OB/OG訪問
立川が聞く
7

「夢」を 語れる人は 強いんです

川崎健治さん

(一九八二年 経済学部卒業)

今回は、現在JR東日本に勤務し、藤代駅駅長として活躍の川崎健治さんにインタビューしてきました。

取材：立川和美（社会学部准教授）

大学生としての学生時代はいかがでしたか？

ともかく楽しかったですね。実は、流経大は滑り止めに受験し、どうしても現役で進学しなかったという理由で入学したんですよ。出身高校の太田一高からは国立大学に進学する者も多かったのですが、その時は悔しい気持ちもありました。

りました。ですから、「卒業するときには一番で」という目標をもって通い始めました。大学でできることは全てやろうと、本当にいろいろなことにチャレンジしましたね。中学生の頃からサッカーをやっていたのですが、大学では、今のバドミントン部の前身の愛好会を創設したり、大学三年生の時にはつく

ばね祭実行委員会の副委員長になったり、学生会や代議委員会の役員も務めました。アルバイトもずいぶんしましたよ。湯の丸セミナーハウスにはバドミントンの合宿で行ったことが縁で、長くアルバイトをしましたし、その他にも、家庭教師や日通の現金輸送、国鉄（現在のJR）のホームで特急券を

売ったこともありです。物事の先を読むことや、丁寧に仕事をすることの大切さなどは、この時に身に付けました。

——就職免許も持ちなんですかね。
ええ。当時「教育原理」をご担当されていた黒澤英典先生のもとで、「就職免許取得勉強会」を毎週土曜日の午後にしていました。当時は教員になりました。

という気持ちがあったものですか。

それから、ゼミは「渡辺ゼミ」でした。渡辺博史先生には一年生から四年生までずっとお世話になりました。経済学部経済学科に在籍していましたが、社会学を学ぶゼミで、広い領域からもその見る目が養われましたね。ゼミは先輩ともつながりが強く、本当に和気藹々としていました。

先生は「何をやるかではなく、何が出来るかが大切だ」ということを常々おっしゃっていましたね。何もしないでうじうじしてはだめなんだ、というのを痛感しました。この言葉に助けられ、一念発起したことで、私の大学生生活は本当に豊かなものとなったと感謝しています。お蔭で、入学したときの「一番で卒業」という目標が達成できました。私は昭和五七年三月の澤村記念館が完成した時の卒業式で総代を務めたんです。

卒業後は国鉄に入社されるわけですが。

ええ。実は教員としての就職はうまくいかず、父が鉄道で働く姿を間近で見ている「いいなあ」と感じていたのが、昭和五七年に国鉄に入社しました。勝田駅構内係や水戸車掌区での車掌の仕事、水戸運行本部指令室などを経て、平成二年に総務部総務課（広報）の配属になったんです。広報業務は本社広報部を含めて一五年と、私の鉄道生活

の半分以上を占めているのですが、やはりこの経験はとて大きかったですね。JRの広報は「事故広報」がメインなんです。事故が起こったとき、いかに正確に、かつ迅速に公共に伝達するか、情報開示の仕事ですよ。ある意味で会社の恥部を世間に公表しなくてはいけない、厳しいことも多い仕事です。しかしその一方で、会社を代表して守っていく使命を感じましたし、また、世間や社会とのつながりを持つことができるという面で、とてもやりがいのある仕事でした。

その後、いわき駅副駅長を務め、現在は藤代駅の駅長として勤務しています。——駅長さんのお仕事をやる上で心がけていることはどういうことですか？
仕事は、安全・安定輸送の確保やサービスの向上、運転事故防止、社員指導育成など、本当にいろいろあります。特に現在は、駅のトップを務めているわけですから、管理者としての責任もあります。率先垂範で指示命令をきちんと出せなくてはいけませんし、社員とのコミュニケーションをきちんと図ることも大切です。そうした中で、いつも自分の中で具体的な目標をきちんと持って動くようにしていますね。目標を持たなくては、自分の進む方向が決まれませんから。

最後に流経大生にひとことお願いします。

自分の中で「何をしたいのか」を見極めること、そのためには「夢」や「目標」を持つことが大切です。何をしたいのか分からなければ、ともかく「大学でできること」は手当たりしだいなんでもやってみてください。その中の興味のあることがやがて一生の趣味となり、そこから友人の輪も生まれます。これが将来、自分をいろいろな形で助けてくれるようになるものです。私は長くサッカーを続けているのですが、趣味として仕事以外の人間関係ができ、本音で語らう友人を得られただけでなく、仕事においても水戸支社のサッカー部立ち上げなどにも役立ちました。人間としての幅を持つためと考えると、音楽でもいいですし、美術でもいいと思うんです。

それから本当に魅力的な人間というのは、「夢」や「目標」の語れる人間ではないでしょうか。「夢」を語れる人は強いんですよ。まずは、できるだけ大きな目標を持つ、そしてその目標に向けて、自分の現在のポジションにあった、短期的に達成可能な目標をクリアしていくことです。

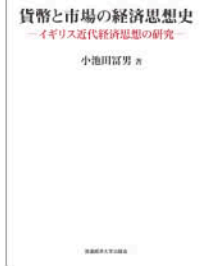
あとは、本を読んでほしいと思います。これは、よく言われていることかもしれませんが、学生時代は一番自由な時間がありますよね。私は大学時代には一年間に一〇〇冊以上の本を読みました。だいたい三日で一冊のペース



「駅長さんらしいお写真を撮りたいのですが」とお願いしたところ、駅のホームでポーズをとってくださりました。とても明るく楽しい雰囲気でお話を伺うことができました。お休みの日は、小学校1年生のお嬢様と出かけることが楽しめということで、「でも忙しくて、ディズニーランドといった近場にしか連れて行ってあげられないんですよ」という優しいお父様の一面もお持ちの方でした。

出版会

新刊のご案内



定価 4,200円
A5判
392頁

「貨幣と市場の経済思想史—イギリス近代経済思想の研究—」

小池田富男 著

「ヨーロッパ世界経済」として成立した近代資本主義は、生まれながらにグローバルな貨幣・金融システムとしての古典的な金・銀の鑄貨本位制によって支えられていた。本書は17、18世紀の重商主義の経済思想から、スミス、リカード、フランクソンそしてJ.S.ミルに到る貨幣と信用の理論について、それぞれの時代の貨幣・信用システムの変遷とその改革をめぐる〈経済論争〉を手懸かりにしながら、すぐれて現代の視点から、資本主義世界経済にとっての古典

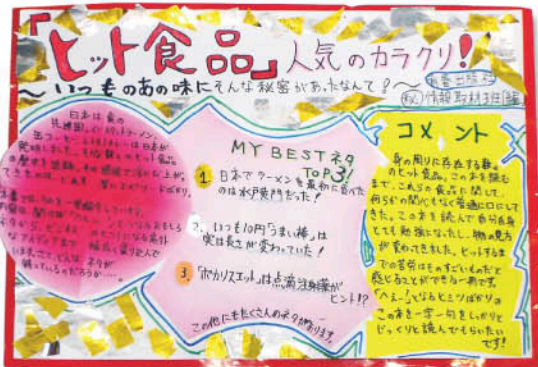
的（銀）本位制の歴史的意義を解明した。経済分析の対象を、単なる資源配分の価格メカニズムではなく、不断に拡大・収縮を繰り返す歴史的蓄積機構としての「ヨーロッパ世界経済」におき、景気変動過程の各局面における貨幣信用システムの役割とその理論について学説史的に分析し、預金創造等による実体経済を上回る債権—債務関係の形成とそれを支える信用の崩壊によって、「金融危機」が資本主義市場経済に不可避であることを明らかにした。

図書館

2008年度
読書コメント大賞決定

流通経済大学図書館では、学生の読書推進策の一環として「読書コメント大賞」を開催しています。今回は応募総数691点の中から、年間コメント大賞（1点）、年間優秀賞（2点）が厳正な審査の結果決定いたしました。

コメント大賞は2009年も継続していきますので、学生の皆さんはぜひ挑戦してみてください。

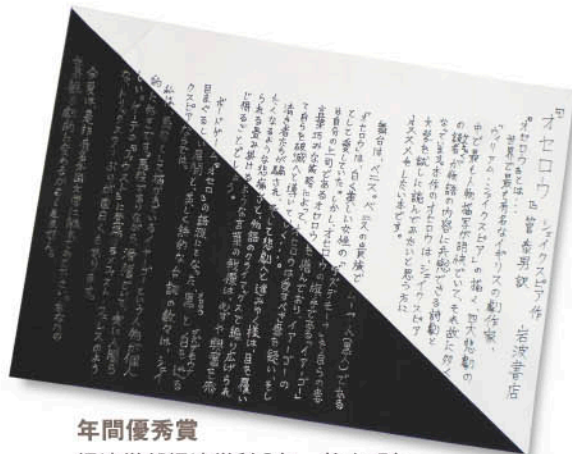


年間優秀賞
法学部ビジネス法学科1年
大重拓也

「ヒット食品」人気のカラクリ！
マル秘情報取材班
(青春文庫)



年間コメント大賞
経済学部経済学科4年 堀口詩織



年間優秀賞
経済学部経済学科3年 牧山明仁

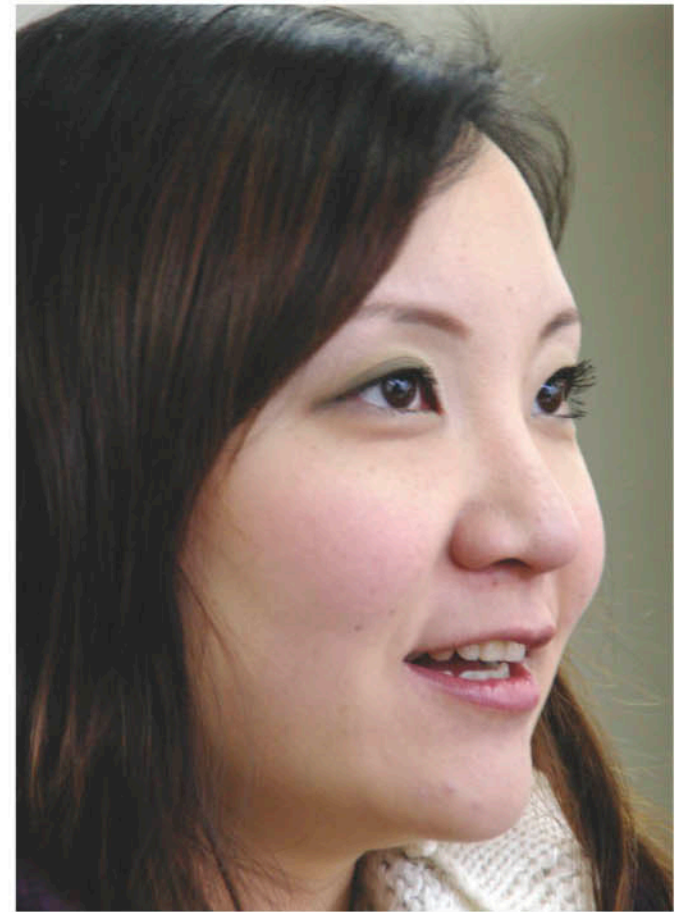


「イギリス美術」
高橋裕子
(岩波新書)



「オセロウ」
シェイクスピア
菅泰男=訳
(岩波文庫)

※受賞者の学年は応募時のものです。



留学生紹介

友達からは、
ゼミチョウと
呼ばれています

社会学部/国際観光学科/3年
張瑩 チョウ・エイ (中国・北京)

龍ヶ崎キャンパスで年末に行われたもちつき大会の
会場で、北京出身の張さんからお話を伺いました。

取材：沖野雅広 (企画広報室)



——もちつきは初めてだと思いましたが、どうでしたか？
おもしろかったです。ただ、杵は思ったより重いですね。お汁粉や黄粉、あんこなどいろいろな味が楽しめて、おいしくいただきました。

——日本では正月にお餅を食べる習慣がありますが、張さんの国では、正月はどのように過ごすのですか？
私の国では、水餃子を家

族で作るのが一般的です。各家庭で入れる具が違うんですよ。
他にも、豪華なご馳走がテーブルにたくさん並びます。日本で、「北京料理」と呼ばれているような料理ですね。
また、中国では旧正月に盛大にお祝いをするのですが、日本の正月より期間が長いです。

——学に入る前は、何をしていたか？
日本語学校を終えた後は、服飾の専門学校に行きました。学校では、布の裁断や素材別の縫合といった基礎知識から服のデザインまで学びました。
今も、パジャマや子ども服を作ったりします。友達にプレゼントすると喜んでもらえてとても嬉しかったです。

——その就きたい仕事というの？
一番の希望は、旅行会社でガイドの職に就くことです。趣味が旅行で、沖縄、京都、大阪、奈良、神戸、伊豆などに足を運びました。そんな旅行を通して見えた、その土地のいいところを紹介できるようにしたいです。

——現在、AXESS検定（※）を取得するなど、将来へむけての勉強をしています。が、当面の目標は来年の奨学金を受けること、そのため猛勉強しています。
※AXESSとは、旅行航空業界で旅行商品(航空座席やホテルなど)を手配するのに使われるコンピューター予約システムのこと、その操作スキルを認定するのがAXESS検定。

2008年度卒業式



3月20日(金)に龍ヶ崎キャンパス講堂にて、2008年度卒業式及び学位記授与式が厳かに行われ、約1200人の学生が社会人として一歩を踏み出しました。



式終了後は、学部ごとに行われる惜別会や、学生会主催の○○会が盛大に行われました。

業界・企業説明会

経済状況が厳しい中、1月26日～30日の期間で両キャンパスにおいて業界企業説明会が開催されました。約150社の人事担当者の方を前に、沢山の学生が積極的に参加していました。



ヨーロッパツアー



2月11日～25日(15日間)、ヨーロッパツアーが行われ、希望学生24名が参加しました。5ヶ国を回ることで、日本にない文化・風習を肌で感じる事ができたのではないかと思います。帰りの成田で、みんな元気な姿を見せてくれました。

[編集後記]

●龍ヶ崎キャンパスの中央広場の一角に1965年(昭和40年)4月の開学当初に植えられ今や見事なまでに大きくなった榎の木がある。1988年(昭和63年)に88年館(現在の4号館)が建設される以前は、まさにキャンパスの中央と言えるところであったために目立っていた。

現在は、当時ほど目立つところではないものの植えられてから半世紀近く経ち名木となったこの榎は、キャンパスのシンボルである。

この榎の木の近くには、いくつかのベンチが置いてあり四季を通じて学生が、くつろいでいる。

今までにこの榎を見上げたり、ベンチに座って思索にふけた学生は数え切れない。半世紀近い間にどれほどの学生にどのように見られたのであろうか。

この榎に見守られるようにして巣立った学生は、時には辛かったとき苦しかったときもあったものと思う。そんな思いを包み込んでくれたと思われるやさしそうな佇まいのこの榎は、幹を太くし枝を伸ばそうとしている。

●いまわが国は、100年に一度とも言われている不況に見まわられている。各界で活躍されている卒業生の方の中には、その影響を受けている方もいる。しかし辛かったとき苦しかったときを乗り越えて社会に巣立ったことを思い起こし奮起していただくことを切に願う次第である。

また、新入生はじめ在学生の皆さんには、この榎の下を通ったり、ベンチに座ったりしたときなどに、卒業生のみなさんの学生時代に思いをはせ、有意義な学生生活を送っていただきたい。

(編集子)

経済産業省の支援を受けて産学連携による人材育成事業を展開

流通情報学部では産学連携(注)による人材育成事業「サプライチェーン・ロジスティクス人材育成プログラム」に取り組んでいます。これは、経済産業省の人材育成支援事業として採択されたもので、国・企業・本学部が協力して、流通情報や物流に関係する人材を育成するための手続きを体系化し、テキストを開発するもので、全国的にもユニークな取り組みといえます。

また、その成果として本学部に新たなコースや新科目が設置されます。これらの新コース・新科目を学ぶことは、メーカー・卸・小売・物流業などの経営や実務を学びたいと考える学生にとって、就職活動において非常に有利に働くでしょう。

(注) 産業界と大学とが相互に協力し、研究や教育の促進を図ること。

関東大学サッカーリーグ優勝祝賀会

1月31日(土)、都内ホテルにて、本学サッカー部Jリーグ・Kリーグ内定者の入団報告会(記者会見)と、第82回関東大学サッカーリーグ優勝祝賀会が行われました。



NEWS & TOPICS



スポーツ方法実習 (スキー・スノーボード)



2月9日から12日、志賀高原にて、スポーツ健康科学部の学生を対象にスポーツ方法実習が実施されました。実技だけではなく応急手当の講義などもあり、学生たちは真剣なまなざしで取り組んでいました。

オリンピック招致にむけて協定締結

2008年12月11日にスポーツ健康科学部は東京オリンピック・パラリンピック招致委員会と、第31回オリンピック競技大会を2016年招致にむけて連携・協力を行うことを目的に協定を結びました。



RKU Schedule 2009年4月～7月

4月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

- 4/1 春学期入学式
- 4/2～9 RKU WEEK
- 4/10 春学期授業開始
- 4月中 第1回就職ガイダンス(就職への心構え)

5月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

- 5/30 ミニオープンキャンパス(龍ヶ崎)
- 5月中 第2回就職ガイダンス(自己分析対策)

6月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

- 6/13 オープンキャンパス(新松戸)
- 6/27 オープンキャンパス(龍ヶ崎)
- 6/20・21 青春祭
- 6月中 第3回就職ガイダンス(ゼミ別・就職活動の諸手続き)

7月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

- 7/15 春学期授業終了
- 7/16～29 春学期定期試験
- 7/18 オープンキャンパス(龍ヶ崎)
- 7/25 オープンキャンパス(新松戸)



オープンキャンパスのお知らせ

開催時間 11:00～15:00

[メニュー]

龍ヶ崎キャンパス 茨城県龍ヶ崎市平畑120

5/30(土) 6/27(土) 7/18(土) 8/1(土)
8/29(土) 9/19(土) 10/3(土)

新松戸キャンパス 千葉県松戸市新松戸3-2-1

6/13(土) 7/25(土) 8/8(土)
8/22(土) 9/12(土) 10/3(土)

- 大学・学部学科、入試概要紹介
- 個別相談
- AO入試エントリー・推薦入試作文指導
- 先輩学生とのフリートーク
- キャンパスツアー

6月から入試相談会も始まります。

- 毎週土曜日に両キャンパスで開催(10:00～14:00)
- 個別にゆっくり説明を受け、相談することができます。

お問い合わせ: TEL 0297-60-1156 (入試センター直通)

RKU

流通経済大学広報誌 **RKU Today** vol.7

2009年4月発行

編集・発行 学校法人日通学園 流通経済大学企画広報室

茨城県龍ヶ崎市平畑120 〒301-8555

TEL: 0297-64-0001(代表)

